

【革新的な新品種の開発（研究計画概要）】

高越夏性およびいもち病抵抗性を持つ ペレニアルライグラス品種の開発

研究期間：令和8年度～令和10年度

研究機関：農研機構東北農業研究センター、畜産研究部門

共同研究機関：独立行政法人家畜改良センター、茨城牧場長野支場、青森県産業技術センター、
山形県農業総合研究センター、山梨県畜産酪農技術センター

1. 研究背景・目的

気候変動に伴い、東北地域を中心とした寒冷地の草地では、**夏枯れによる荒廃の加速化が問題**となっている。越夏性に優れた「夏ごしペレ」は令和4年の発売開始以来、夏枯れ対策として注目され、普及が進んでいるが、ここ数年の異常気象により夏枯れする事例が報告されている。また、夏枯れの主な原因の1つである**いもち病の発生が東北地域でも確認**されていることから、**更なる越夏性の向上に加え、いもち病抵抗性を付与した品種の開発**が急務となっている。



夏枯れした「夏ごしペレ」草地

2. 研究内容

令和4年度補正予算事業における予備検定試験で「夏ごしペレ」よりも**越夏性といもち病抵抗性が優れる**ことを確認した2系統について、育成系統の品種登録出願に向けた以下の研究を行う。

- 育成地における系統適応性試験
- 想定普及地域における系統適応性試験（奨励品種決定調査）
- 越夏が厳しい地域（那須）における越夏性といもち病抵抗性の特性評価
- 実規模採種性試験（原原種子試作）

品種登録出願前に奨励品種決定調査と原原種子試作を行うことで、速やかな普及が期待される。



育成系統の越夏後(9/26)の草勢

3. 達成目標

普及品種「夏ごしペレ」と比較して、いもち病抵抗性が強く、越夏が厳しい地域での**越夏後収量が30%多収で永続性の高いペレニアルライグラス系統**を令和11年度までに開発し、令和12年度に品種登録出願する。